令和４年度　授業改善推進プラン　　成果と課題

教科（　英語　）　　学年（　1　）

目指す授業

・生徒一人ひとりが「わかる」「楽しい」授業を目指す。

授業・アンケート等の課題分析

・授業中の意見交換や話し合いでは積極的に活動する生徒が多くみられる。アンケートでも９割の生徒が「自分の考えを書いたり、発表する機会が与えられたりしている」に肯定的に回答している。
・一方、「わかりやすい」に否定的な回答が 15%あった。「学ぶ楽しさ」に否定的な回答が 25%あった。

成果と課題

成果

・グループ活動、意見交換、発表の機会を多く設定することで、生徒にアウトプットをたくさんさせることができた。

課題

・「わかりにくい」「楽しくない」と感じる生徒のために、理解をさせてからアウトプットさせ、「できた」「楽しい」を感じられるよう、説明と理解の確認と練習をスモールステップで行う必要がある。

令和４年度　授業改善推進プラン　　成果と課題

教科（　英語　）　　学年（　2　）

目指す授業

・生徒が目的をもって参加し、英語を理解し、練習し、めあてとして設定されている項目をできるようになる授業を目指す。

授業・アンケート等の課題分析

・アンケートの結果、16%の生徒が「わかった」「できた」に否定的な回答をしている。
・授業中の様子だと、もっと多くの生徒が「わからない」「できない」ように見える。
・一方、92%の生徒が「学ぶ楽しさ」を感じている。

成果と課題

成果

・アンケート結果から、学ぶことの楽しさは知っている生徒が多い。話し合いや発表で生徒たちが楽しそうに活動に取り組む場面が多くみられた。

課題

・活動を通して英語が「わかった」、英語で「できた」と感じられるように、スモールステップでの活動とふり返りを引き続き行う必要がある。

令和４年度　授業改善推進プラン　　成果と課題

教科（　英語　）　　学年（　3　）

目指す授業

・生徒一人ひとりがわかる授業を目指す。

授業・アンケート等の課題分析

・アンケートの結果、20%の生徒が「わかった」「できた」に否定的に回答している。
・授業中、全体での指示で活動に参加できない生徒でも個別に声をかけると少しずつ参加できることがある。

成果と課題

成果

・単元末の発表の準備段階において、個別指導、グループでの教え合い、タブレット活用等により、英語で自己表現できるようになった生徒が増えてきた。

課題

・スモールステップとふり返りをもっとていねいに行い、「わかった」「できた」をたくさん経験させる必要がある。